

## ミンミンおひびがぶり

5年 C・Gさん

「いい顔」ってどんな顔かな。この本に出てくるミンミンや、悠介のお父さんの写真集に出てくる人々のしている「いい顔」。私は「いい顔」を想像した。ミンミンが日本に来て悠介と海に行った時、海らしいかっこをしないためたくさんの人に見られたり、わる口などをいわれた。しかしそんなことは気にせず、自分の意志だけで行動しているミンミンは、きつと「いい顔」だったろう。自分の気持ちに素直にまっすへ向き合っているから「いい顔」ができるのだと思った。悠介はどうだろう。最初は「いい顔」ではなかったと思う。なぜならお父さんとお母さんが別居している悲しみや本当は三人でくらしたいのという不満をおさえて、マンガやゲームで本心をごまかしていたからだ。だがミンミンが日本にやってきて、いつも自分の気持ちに正直なミンミンにふりまわされるうちに悠介は変わった。ずっと自分ががまんしていた気持ちに気付き、ごまかさず自分の気持ちに素直になれ、「いい顔」になれた。

悠介のお父さんが日本には「いい顔」の人が少ないと言っているがそれはなぜだろう。日本はとても豊かで家にもネットでも手にはいる。そのため、人と人とのつながりの大切さもうすれるし、自分で食べものや生きるために必要なものを得る苦勞などを味わうこともできない。だから、生きていくのに一番大切な事を見失いがちなのではないのだろうか。またネットやテレビでの、他の人の意見を気にしすぎて、自分の考えを大切にしない人も多いからかなと思った。

私はこの本を読んで、自分は「いい顔」をしているかなと考えた。私はこの本を読む前は、周りの意見や空気をよむのはいいことだと思っていた。でもこの本を読んで自分の気持ちに素直になるとすてきな自分になれ気持ちが明るくなる事を知った。

私はこの夏、海に行つて水平線を見た。広大な景色を見ると心まで広大なものにかわれた。私はこの夏にいろんなことをおしえてくれたミンミンに心の中でさけぶ。ミンミンありがとう。